【ねがいましては】

平成１８年８月２８日
第１９１号　　*KYOWA　SCHOOL*

「巣立ち」

キャンプ説明会前日、スタッフで高３のＹちゃんから携帯メールが届きました。キャンプへ参加する予定になっていた友達が、母親の反対に遭い、行けなくなったと、連絡があったとのこと。私は何か誤解でもなさっているのかと思い、「ご迷惑でなければ、友達のお母さまに電話して説明しようか。」と、返事をしました。「友だちに聞いてみる。」というので、その場は一旦電話を切りました。そして直に返事が来ました。「友達の携帯に連絡が付かないので、自宅へ電話をしてみたら、お母さまから『この家の教育方針なので行かない。』と言われた。」という返事。

唖然・・・。友達はあまりのことに、泣きながら家を飛び出していったということでした。私の中には『怒り』と『せつなさ』が、同時に通り過ぎるのを感じました。

私は心の中で、「親と真正面から戦いなさい。」と、その子に声をかけていました。「１８歳になって、もうしっかり自分を出せることができるはず、自分に非がなければ、とことんまで戦いなさい。そして、私はここまで成長しているのだということを必死に訴えることだ。」私の中をぐるぐると言葉が駆けめぐります。

その子は、高校３年生のＹちゃんの友達で、この教室のキャンプのお話をしていたところ、「行ってみたい。」と言い始めたそうです。その子の将来の夢は、『幼稚園の先生』だそうで、ちょうど今回、年長さんが参加することもあり、これは良い機会だなと思っていたのです。決して遊ぶことが目的なのではない、いい加減な、ふらついた考えではないものを強く感じたのです。子どもたちと肌で付き合う４泊５日です。きっと今まで以上に、自分の夢に向かって歩いていけるエネルギーを受け取ってもらえるだろうと、私自身が楽しみにしていました。もちろんその子のお母さまからも感謝の意をいただけるものと思っていました・・・。

そしてキャンプが始まりました。昨年できなかった『きもだめし』も行なうことができました。私の『きもだめし』は、真剣なこころの勉強です。子どもたちが考えているものを大きく裏切ります。今までに何回も参加している子はうすうす感じます。夜、自殺で有名な『樹海』へ連れて行きます。もちろん明かりなどありません。頼りになるのは懐中電灯の明かりだけ・・・。ひととおり、２～３人の組に分かれて歩いてきます。全員が終了。そして私の真剣なここだけのお話です。

「ここへは、自分で自分の事を殺してしまおうと考えている人が多く来ます。一人ぼっちで来るんです。懐中電灯も持たずにです。でも考えてみてください。その人には『家族』がいるはずです。その日の晩、その人はおうちへ帰りません。家族の人たちは『どうしたのだろう』と、心配を始めます。そして次の日も帰りません。もしあなたがたの家族の一人が、そのようにして帰ってこなかったら、どれほど心配しますか、想像してみてください。生きている心地がしないのではありませんか・・・。あなたがたは、自殺をしにここへ来た人は、『かわいそうな人』だと思っているかもしれません。でも、これだけの心配を家族にかけているんです。この人は『かわいそうな人』ですか、それとも、『とんでもない身勝手なオオバカ』ですか・・・。わかりましたか、つまり自殺をするということは、とてつもない悪いことなんです・・・・・・・。（シーンと、静けさが通り過ぎます。）中略

さて、今いる隣の子と、そっと手をつないでみてください。（全員が手をつなぎます。）感じますか、これが生きているということです。これが人の温もりというものです。あたたかいだろ・・・。そのようにして、人はぬくもりを感じながら生きて行きます。ぬくもりを感じたとき、人は自殺など考えるはずがありません。

さて次だ、手を離してみてくれ、目をつむってくれ、そして感じてみてください。先ほど手をつないでいたときの気持ちを・・・。どうだい、感じることができたかな・・・。絶対に忘れないでください。その気持ちを家へ帰ったら家族の人に渡してくれ・・・。もしおうちの人の中に元気のない人がいたら、今の君たちなら、きっとぬくもりを渡すことができるはずだ・・・。この地球上のすべての人が、この気持ちを手に入れることができたのなら、きっと後ろにある看板など必要なくなるんじゃないかな・・・。（実は後ろに自殺防止用の看板が立てられています。）

キャンプのしおりの一番後ろに書かれている言葉があるよね、『もしとなりに誰かいたら・・そっとこころの手をにぎってあげてね！』今のあなた方は、しっかりととなりの人の心の手をにぎっているんだよ・・・。この４泊５日のキャンプで一番に勉強すること、わたしが一番あなた方に渡したいプレゼント・・・それが今の気持ちです。」

樹海からの帰りの車の中で、Ｙちゃんはずっと泣いていました。「先生、久しぶりに家族といっしょに居たくなっちゃった。」

ありがとうね。その気持ちが私のこころを温めてくれるんですよ。

残念ながら、今回参加できなかったＹちゃんのお友だち・・・このキャンプに参加した全員の『こころの手』受け取って下さい。そして世界で一番のぬくもりのある手をした先生になってください。

そして今年も多くの方々の協力をいただきました。特に帰りの移動でお車を出していただいた藤枝さん、山田さん、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。娘、来年もよろしく。船山さん、来年こそはですね。

そしてスタッフの諸君、キャンプ場関係者の方々、ありがとうございました。